

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のI F記載要領2008に準拠して作成

胃炎・胃潰瘍治療剤
日本薬局方 レバミピド錠
レバミピド錠 100mg 「TSU」
Rebamipide Tablets 100mg 「TSU」

剤形	白色のフィルムコーティング錠
製剤の規制区分	なし
規格・含量	1錠中レバミピド100mgを含有する
一般名	和名：レバミピド 洋名：Rebamipide
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2010年1月15日 薬価基準収載年月日：2010年5月28日 販売年月日：2010年5月28日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：鶴原製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	鶴原製薬株式会社 医薬情報部 TEL：072-761-1456（代表） FAX：072-760-5252 医療関係者向けホームページ http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp/medical/member/

本I Fは2010年4月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

I F 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過した現在、薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会において新たなIF記載要領が策定された。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとす。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「IF 記載要領 2008」により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」（以下、「IF記載要領2008」と略す）は、平成21年4月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008年9月)

目 次

[I] 概要に関する項目	1
[II] 名称に関する項目	2
[III] 有効成分に関する項目	3
[IV] 製剤に関する項目	4
[V] 治療に関する項目	9
[VI] 薬効薬理に関する項目	10
[VII] 薬物動態に関する項目	11
[VIII] 安全性(使用上の注意等)に関する項目	14
[IX] 非臨床試験に関する項目	17
[X] 管理的事項に関する項目	18
[X I] 文 献	20
[X II] 参考資料	20
[X III] 備 考	20

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- ・ 胃粘膜のプロスタグランジンE₂増加作用・フリーラジカル抑制作用を併せ持つ初めての胃炎・胃潰瘍治療剤である。
- ・ 胃粘膜の炎症を抑制するとともに血流量を増加させ、粘膜機能を改善する

Ⅱ. 名称に関する項目

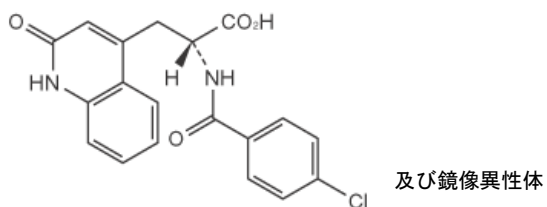
1. 販売名

- 1) 和名：レバミピド錠 100mg 「TSU」
- 2) 洋名：Rebamipide Tablets 100mg 「TSU」
- 3) 名称の由来：特になし

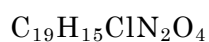
2. 一般名

- 1) 和名（命名法）：レバミピド
- 2) 洋名（命名法）：Rebamipide
- 3) ステム：

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量



5. 化学名（命名法）

(2RS) -2- (4-Chlorobenzoylamino) -3- (2-oxo-1, 2-dihydroquinolin-4-yl) propanoic acid

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

プロアミピド (proamipide)

7. CAS登録番号

111911-87-6

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末であり、味は苦い。

2) 溶解性

N, N-ジメチルホルムアミドにやや溶けやすく、メタノール又はエタノール (99.5) に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

3) 吸湿性

該当資料なし

4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

融点: 約 291°C (分解)

5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

6) 分配係数

該当資料なし

7) その他の主な示性値

N, N-ジメチルホルムアミド溶液 (1→20) は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法(1) 臭化カリウム錠剤法

(3) 炎色反応試験法(2)

4. 有効成分の定量法

本品を乾燥し、その約0.6gを精密に量り、ジメチルホルムアミド60mLに溶かし、0.1mol/L水酸化カリウム液で滴定する (指示薬: フェノールレッド試液2滴)。ただし、終点は液の微黄色が無色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1mol/L 水酸化カリウム液 1mL=37.079mg $C_{19}H_{15}ClN_2O_4$

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

- 1) 剤形の区別及び性状：白色のフィルムコーティング錠
- 2) 製剤の物性：
- 3) 識別コード：911
- 4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等：記載事項なし

2. 製剤の組成

- 1) 有効成分（活性成分）の含量：1錠中レバミピド 100mg
- 2) 添加物：乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ
- 3) その他

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

4. 製剤の各種条件下における安定性

試験条件及び保管	試験期間	保存包装	試験項目	試験ロット
加速試験 温度 40±1℃ 湿度 75±5%RH	6ヶ月	①PTP 包装：PTP 包装後、紙箱に入れたものを使用した。 ②バラ包装：ポリエチレン容器に入れたものを使用した。	1) 性状 2) 確認試験 3) 質量偏差試験 4) 溶出性 5) 定量法 6) 分解物試験	RE-T1 RE-T2 RE-T3

考察

- 1) 性状 全ての検体において、規格に適合した。
- 2) 確認試験 全ての検体において、規格に適合した。
- 3) 質量偏差試験 加速条件で6ヵ月間保存した検体において、規格に適合した。
- 4) 溶出性 全ての検体において、規格に適合した。
- 5) 定量法 全ての検体において、規格に適合した。
- 6) 分解物試験 局外規の『レバミピドの規格及び試験方法』の純度試験を基に試験を行った結果当社の基準に適合した

以上、加速条件で6ヵ月間保存した本品の PTP 包装品及びバラ包装品の全ての検体で、全ての規格に適合していた。よってこの包装形態にて室温で3年間は安定であると推定できる。

レバミピド錠 100mg 「TSU」の経時変化試験成績表

包装	保存条件	保存期間	ロット番号	性状			確認試験			質量偏差試験				
				1回	2回	3回	1回	2回	3回	1回	2回	3回		
40°C±2°C 75%RH±5%	PTP包装	製造時	RE-T1	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	(1)適 (2)適 (3)適	(1)適 (2)適 (3)適	(1)適 (2)適 (3)適	判定値 1.8 適	判定値 1.0 適	判定値 1.1 適		
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 1.5 適	判定値 1.1 適	判定値 1.1 適	
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 1.1 適	判定値 1.7 適	判定値 1.6 適	
		1箇月	RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
		3箇月	RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
		6箇月	RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 2.4 適	判定値 2.7 適	判定値 2.0 適	
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 2.4 適	判定値 1.9 適	判定値 3.1 適	
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 2.3 適	判定値 1.6 適	判定値 2.5 適	
		バラ包装	製造時	RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
				RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
				RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			1箇月	RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
				RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上			
	3箇月		RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上				
	6箇月		RE-T1	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 1.8 適	判定値 2.9 適	判定値 2.2 適	
			RE-T2	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 2.5 適	判定値 2.6 適	判定値 2.0 適	
			RE-T3	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	判定値 1.9 適	判定値 3.2 適	判定値 2.3 適	

包装	保存条件	保存期間	ロット番号	溶出性			定量法 (%)			分解物試験		
				1回	2回	3回	1回	2回	3回	1回	2回	3回
40℃±2℃ 75%RH±5%	PTP包装	製造時	RE-T1	適	適	適	99.9	99.8	99.5	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	100.0	101.0	99.4	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.7	99.8	99.7	適	適	適
		1箇月	RE-T1	適	適	適	100.0	100.0	100.6	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	99.6	99.9	100.2	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.9	100.0	100.6	適	適	適
		3箇月	RE-T1	適	適	適	100.3	98.7	99.9	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	99.2	99.8	100.2	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	100.6	100.0	100.3	適	適	適
		6箇月	RE-T1	適	適	適	99.4	99.5	99.9	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	99.1	100.2	99.9	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.8	100.0	100.3	適	適	適
	バラ包装	製造時	RE-T1	適	適	適	99.9	99.8	99.5	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	100.0	101.0	99.4	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.7	99.8	99.7	適	適	適
		1箇月	RE-T1	適	適	適	100.0	101.0	99.5	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	99.3	99.7	99.6	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.9	99.7	100.2	適	適	適
		3箇月	RE-T1	適	適	適	99.9	99.4	99.3	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	99.1	99.3	99.2	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.9	99.6	99.9	適	適	適
		6箇月	RE-T1	適	適	適	99.4	100.0	100.1	適	適	適
			RE-T2	適	適	適	100.3	99.6	100.2	適	適	適
			RE-T3	適	適	適	99.9	100.6	99.8	適	適	適

5. 調整法及び溶解後の安定性

該当資料なし

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性

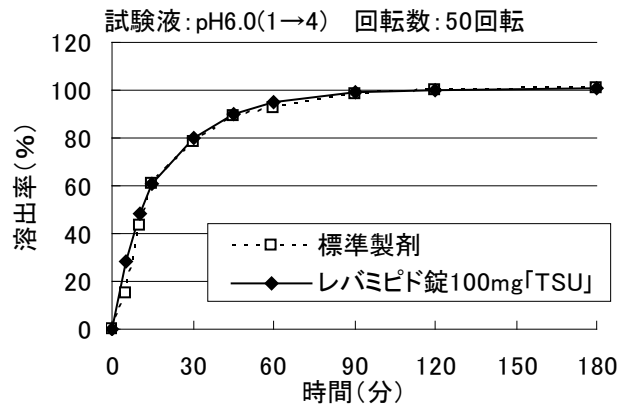
レバミピド錠 100mg「TSU」の溶出は、日本薬局方医薬品各条に定められたレバミピド錠の溶出規格に適合した。

試験方法：溶出試験法第2法（パドル法）

回転数：毎分50回転

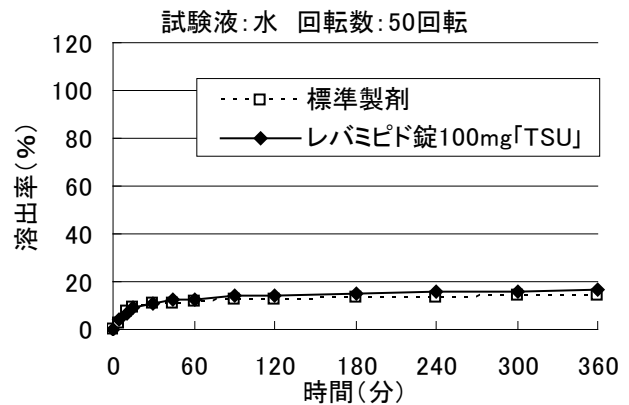
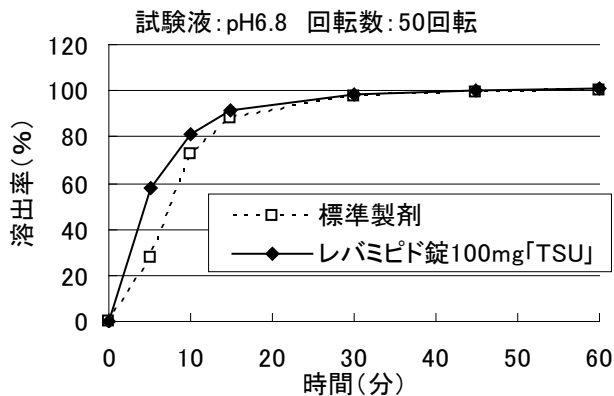
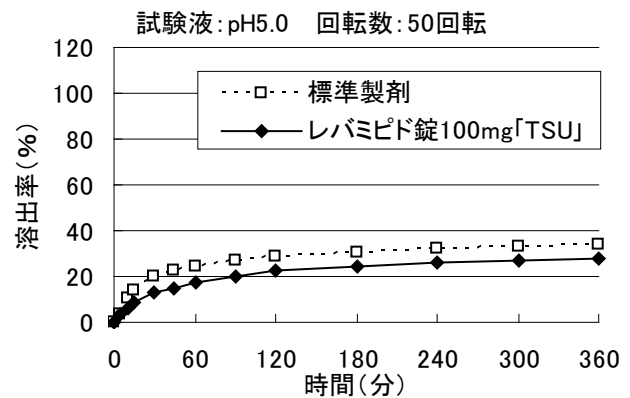
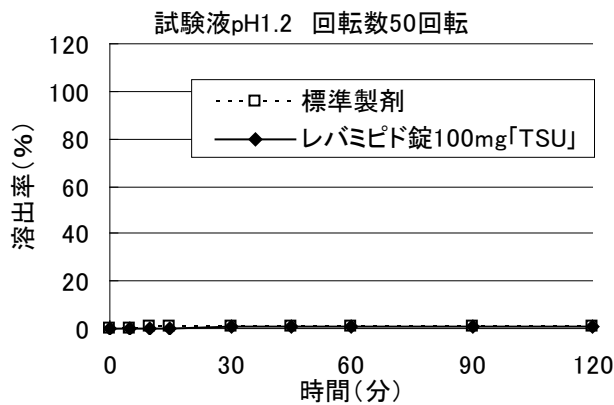
試験液：pH 6.0

溶出規格：60分 75%以上



《溶出挙動》

レバミピド錠 100mg「TSU」につき、標準製剤を対照として、下記に示す4種試験液を用いて溶出試験を実施した。結果：標準製剤を対照としたレバミピド錠 100mg「TSU」の溶出試験結果を下図にそれぞれ示す。レバミピド錠 100mg「TSU」の溶出パターンは、標準製剤と同等であった。



8. 生物学的試験法

該当資料なし

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日本薬局方による

10. 製剤中の有効成分の定量法

日本薬局方による

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

- 胃潰瘍
- 下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

2. 用法及び用量

- 胃潰瘍
通常、成人には1回1錠（レバミピドとして100mg）を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
- 下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期
通常、成人には1回1錠（レバミピドとして100mg）を1日3回経口投与する。

3. 臨床成績

（1）臨床データパッケージ

該当資料なし

（2）臨床効果

該当資料なし

（3）臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

（4）探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

（5）検証的試験

1）無作為化平行用量反応試験

該当資料なし

2）比較試験

該当資料なし

3）安全性試験

該当資料なし

4）患者・病態別試験

該当資料なし

（6）治療的使用

1）使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2）承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

- ・ラットで胃粘膜内プロスタグランジン E2 及び胃液中のプロスタグランジン E2、I2 を増加させる。
- ・ラットで高分子糖タンパクの生合成酵素活性を亢進し、胃粘液量を増加させる。
- ・ラットで胃粘膜血流量の増加が報告されている。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

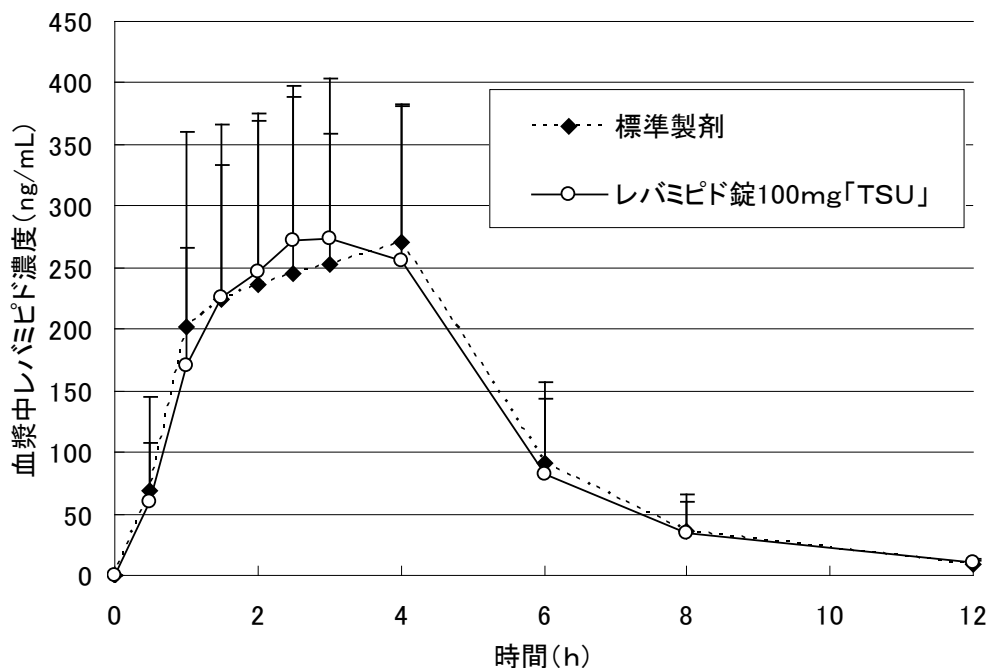
(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

生物学的同等性

レバミピド錠 100mg「TSU」と標準製剤との生物学的同等性を検討するため、健康成人男子 24 名を 2 群に分け、クロスオーバー法にて絶食時に 1 錠を水 150mL とともに単回経口投与し、両製剤投与後の血漿中レバミピド濃度推移を比較した。

結果：血漿中レバミピド濃度は、投与後 2.5～3 時間で最高血漿中濃度に達し、その後減少し 12 時間目にはほとんど消失した。得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



(mean ± S.D. n=24)

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₁₂ (ng · hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
レバミピド錠 100mg「TSU」	1364 ± 516	343 ± 132	2.4 ± 1.1	2.5 ± 1.4
標準製剤 (100mg、錠)	1390 ± 548	370 ± 130	2.6 ± 1.2	2.0 ± 0.6

(mean ± S.D. n=24)

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

(「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7.相互作用」の項を参照のこと)

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメーター

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁中への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

1) 重大な副作用(頻度不明)

1. ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 白血球減少、血小板減少：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
3. 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	頻 度 不 明
過敏症 ^{注1)}	発疹、瘙痒感、薬疹様湿疹等の過敏症状、蕁麻疹
精神神経系	しびれ、めまい、眠気
消化器	便秘、腹部膨満感、下痢、嘔気・嘔吐、胸やけ、腹痛、げっぷ、味覚異常、口渇等
肝 臓 ^{注2)}	AST(GOT)の上昇、ALT(GPT)の上昇、 γ -GTPの上昇、Al-Pの上昇
血 液	白血球減少、顆粒球減少、血小板減少等
そ の 他	月経異常、BUN上昇、浮腫、咽頭部異物感、乳腺腫脹、乳房痛、女性化乳房、乳汁分泌誘発、動悸、発熱、顔面潮紅、舌のしびれ、咳、息苦しい、脱毛

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) トランスアミナーゼが著しく上昇した場合や発熱、発疹等が同時にあらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、消化器症状等の副作用に注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- 2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。〔動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。
〔使用経験が少ない。〕

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

15. その他の注意

特になし

16. その他

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

(「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

- 1) 製剤：なし
- 2) 有効成分：なし

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱いについて

（「規制区分」及び「貯法・保存条件」の項を参照のこと）

（2）薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目 14.適用上の注意」の項を参照のこと）

5. 承認条件等

なし

6. 包装

100錠（PTP）、1000錠（PTP）

7. 容器の材質

ポリ塩化ビニル・塩化ビニリデン、アルミニウム箔

8. 同一成分・同効薬

ムコスタ錠 100mg

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

2010年1月15日

22200AMX00210000

11. 薬価基準収載年月日

2010年5月

12. 効能・効果追加, 用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

なし

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

なし

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

該当しない

16. 各種コード

HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
119937601	2329021F1013	621993701

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

なし

2. その他の参考文献

第 18 改正日本薬局方

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III . 備 考

1. その他の関連資料

なし



製造販売元

鶴原製薬株式会社

大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

文献請求先：鶴原製薬（株）医薬情報部